

随

想

捨てられない

ここ数年、今年こそは、と言いつけてできていないことの一つが研究室の整理です。物が多くて手が付けられないというのがありますが、物を捨てられないタイプの人間、というのも大きな理由です。

先日、棚を整理していたらSONYのCLIEというPDAが出てきました。20年以上前の製品で、電源も入りません。ここで捨てればいいのですが、ネットでちよつと調べると当該機種用のバッテリーを見つけてしまいました。翌週には電源も入り、大満足となったのですが、とくに使い道はありません。こんなことですから、他にも20年以上使われることのないパソコン(NECのPC-98やAppleのMacintosh)を退職後に起動するのを楽しみに捨てられずにいます。

職業柄、もう一つ捨てられないものに紙の資料があります。幸い、電子化という手段ができたおかげ

で、場所は取らなくなりました。今、愛知淑徳短期大学のコミュニケーション学科(1987-2000)で作成した卒業研究の抄録集を電子化・データベース化する作業をしています。研究資料としてはそれほど価値があるとは言えませんが、コミ科的創設時のメンバーである私としては将来に渡って残しておきたい物だからです。しかし、電子化して保存したとしても、結局、利用する人がいなければ、データの存在も忘れられ、捨てたのと余り変わりません。こういった資料をどう残していくのか、もう少し考えてみようと思います。

